

(記入例) 令和元年度 事務事業評価シート

事業番号	0	0	1
実施計画事業			
実施計画事業以外の事業	○		

令和元年度 事務事業評価シート

1. 事業の概要

事務事業名	水防訓練実施事業					担当部	総務部				
事業期間	平成12年度以前 ~ 令和2年度以降					担当課	危機管理課				
新基本計画 (平成26年~平成30年)	基本施策	01	展開方向	1							
予算区分	一般会計	款	02総務費	項	01	目	14	大	03	中	01

2. 実施状況

目的…台風や集中豪雨に備え、関係機関の協力を得て、地域の河川状況を勘案した水防訓練を実施し、職員等の水害対応能力の向上を図り、被害の発生又は拡大を未然に防ぎ、水害による被害の軽減を図る。

対象…市民、市職員、消防職員、消防団員、災害協定締結事業所作業員

手段…例年実施している河川敷の訓練会場を変更し、小牧南小学校のグラウンドで実施した。
また、市民参加型の訓練として、小牧南小学校区の市民にも訓練参加を呼びかけ、土のう作りや避難所運営の体験など市民が訓練に参加した。

実施日:平成30年5月20日
会場:小牧南小学校
参加者数:600人

【実施状況】
平成30年度に実施した具体的な事業内容について記載しています。

3. 総合診断

事業費	項目	単位等	H27	H28	H29	H30	R1		
			直接経費	決算額	財源	一般財源	千円	1,649	1,883
			国・県支出金	千円	0	0	0	0	
			その他	千円	0	0	0	0	
			計(A)	千円	1,649	1,883	1,820	671	
			対前年比	%	-	114.2%	96.7%	36.9%	
			(当初)予算額	千円	2,014	2,176	2,096	1,036	1,066
事業費	人件費		正職員	人	0.15	0.15	0.15	0.15	
			正職員(平均人件費)	千円					
			その他職員	人					
			その他職員(時給×年間時間)	千円					
			計(B)	千円					
事業費合計(C=A+B)			千円						
指標	成果指標	水防訓練実施回数	目標						
			実績						
			実績						
	活動指標	水防訓練参加者数	目標	480	480	480	400	300	
			実績	600	600	600	600		
			実績						
@事業費	受益者数(a)	人	600	600	600	600			
	受益者あたり事業費(b=C/a)	円	4,620	5,010	4,905	2,990			

【受益者あたり事業費】
当該事業の受益者一人当たりの事業費について記載しています。
受益者数は、この事業では、水防訓練参加者数を使用しています。

【判定区分】

事業費分析や指標分析の結果を踏まえて、3つの区分から選択しています。

- ①改善点は見られない・・・現状の取組みを引き続き行っていく場合に相当します。
- ②改善点が若干見られる・・・現状の取組みについて、若干改善を要する点がある場合に相当します。
- ③大いに改善すべき・・・現状の取組みについて、大いに改善をする必要がある場合に相当します。

改善点は見られない	○	改善点が若干見られる		大いに改善すべき
-----------	---	------------	--	----------

30年度から、例年実施している河川敷の訓練会場を変更し、小牧南小学校のグラウンドで実施することとした。また、市民参加型の訓練として、小牧南小学校区の市民にも訓練参加を呼びかけ、土のう作りや避難所運営の体験など市民が訓練に参加できるようにした。
 その結果、水害による被害を軽減し、市民の生命と財産を守るため、市民及び職員ほか参加者の水防工法等の知識及び意識の向上という面で、一定の成果を挙げる事ができた。
 30年度は小学校グラウンドでの実施のため、訓練会場の除草、仮設橋設置委託が不要となったことにより決算額が大幅に削減された。今後は2年小学校グラウンド、1年河川敷のローテーションとする計画のため、河川敷で実施する年度の決算額は増額することとなる。

診断結果

【事務事業評価による額】

事務事業評価による事業費の組替額（削減額）です。

4. 総合評価

事業の方向性	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの			
削減額・対象	事務事業評価による額	千円	予算区分	節	節
近年、集中豪雨が発生する頻度が高くなってきていることを踏まえ、水害発生時に備えて水防工法に習熟している職員を育成することは必要であり、水防訓練は毎年実施すべきものである。市民への訓練参加を促すことにより防災意識の向上を図る。 令和2年度は、会場を河川敷とするため、予算額は昨年度、今年度と比較すると上昇する。					

【事業の方向性】

「3. 総合診断」までの検討を踏まえて、今後の事業の方向性について6つの区分から選択しています。

- ①拡大・・・対象の拡大や手段の充実等により、事業のボリュームを拡大すべきもの
- ②維持・・・事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの
- ③縮小・・・対象や手段の絞込み等により、事業のボリュームを縮小すべきもの
- ④廃止⇒縮小・・・現状の事業内容を廃止し、より効果的な事業内容を新たに実施すべきもの
- ⑤平成30年度終了・・・平成30年度に事業を終了
- ⑥令和元年度以降終了予定・・・令和元年度以降に事業が終了するもの

評価結果